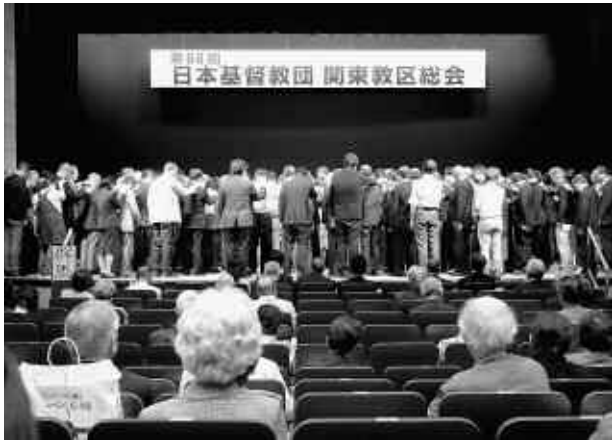


教団新報

定 価 1部144円(本体133円+共206円)
予約購読料 1年分 千共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋 山 徹
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし



按手により正教師1名を立てる

教区総会報告

2018年度

3

沖縄

関東

東北

東中国

東京

西東京

教会・教区・教団の諸課題を議論

教団総会議員選出せず、04年以来連続8回

沖縄教区 第78回沖縄教区総会は、

5月27・28両日、沖縄キリスト教センターで、開会時、議員42名中37名が出席して開催された。沖縄教区は、03年以来、教団問安使を拒否しているが、石橋秀雄教団総会議長、秋山徹総幹事が、総会を傍聴した。

平良修議長は、5頁にわたる議長報告で、「この1年間、各地で学習協議会を7回開催したが、教区内には、『自分の間、教団との間に距離を置く』方針に、割れ目が生じており、反発・非協力の幾つかの教会を問安した。対話の道が開かれたことは嬉しいことで、今後、更に切り開いて行かねばならないと、覚悟している。牧師不足は深刻で、

28教会・伝道所中、無牧・代務は6カ所に及び、信徒伝道者の養成は、真剣な課題」と報告した。

三役選挙で、平良修議長(うふぐと伝道所代務)が再選。平良議長は、「選挙結果を確かに受けとめた。責任を果たして行く覚悟だが、選んだ人の責任もあり、共同作業だと思っている」と語った。

副議長に石川栄喜議員(石川)、正副議長協議で羽柴慎議員(名護伝道所)

が書記と、三役中2名が新たに選ばれた。

今総会では、新たに幹事職を新設したが、平良議長は、その理由について、「教区三役引き継ぎの課題を果たすため」と語り、「清算法人沖縄キリスト教団の法的処理問題が、そのまま残っており、幹事にはその仕事を任せたい」と、その一例を挙げた。

初代幹事には、伊波美智子前書記(宜野湾伝道所)が選任された。

10月の教団総会議員選出議案は、審議に付され、冒頭、「距離を置いて15年。もう選出しても良いのではないか」との意見が信徒議員から出たが、議論が続かず、挙手投票の結果、否決され、沖縄教区は、04年以来、連続8回、教団総会議員を選出できなかった。

「距離を置く」状態は、まだ続くことになったが、2日目午前、退出する石橋秀雄教団議長を、

平良修議長が呼び止めて握手し、議場の拍手を浴びる一幕もあった。

2日目の財務報告で、外間永二委員長は、「18年度予算案は、前年度比100万円増の1600万円を計上してあるが、教区財政は逼迫した状況にある。謝儀基準は20年前のを使っており、かつて1300人を数えた現住陪餐会員は467人となった」と、教区の経済的苦境を訴えた。

沖縄



按手礼、左端は石橋議長

議長報告、一部削除して承認

関東教区 第68回関東教区総会が5月23・24日、大宮ニッパシテイ・小ホールで、開会時議員268名中188名の出席で開催された。

今総会では、北本教会の阿部洋治教師招聘についての議長報告に対する審議に時間を割いた。冒頭、組織会前、教区三役が議案報告書の送付が遅くなったことを詫びた。緊急の場合以外は10日前に手元に届くように」との規則に違反すると指摘し、説明を求める意見があった。東野尚志議長は「議長報告の文言を整え、了解を得るのに時間がかかった」と告げ

た。

議長報告の中で、東野議長は、「阿部教師は、教団での身分は補教師であるが、教団紛争期に福音主義教会連合(福連)の按手を受けており、当該按手が教団において認められるよう求めていく」と述べた。

補足して経過を説明し、「按手が認められることを北本教会から教団議長に願ひ出たところ、教師検定期規則第10条に則って申請するよう勧めがあり、教会と阿部教師は、その方法で正教師となることを求めて行く決断をした。再按手については教師検定委員会の審査を

待つ」と述べた。

報告に対し、福連の按手は教会性がある按手礼として認めることは出来ない、「教区議長報告に、福連議長の立場を持ち出すべきでない」、「教団は福連の按手を認めない見解を出しており、正規の手続きを経るべき」等の意見があった。

東野議長は、「信仰告白が曖昧にされ、教意に違反する仕方で教団の試験が行われた時代に、教規に違反する形で連合の試験が行われた。歴史的背景を正しく理解しなければならぬ」と述べた。

審議の中で、議長報告は、総会前の常置委員会では結論が得られず、臨時常置委員会でも受け止めた上で、総会に提案されたとの経緯が説明された。

報告承認に至らず、一日目終了後に、臨時常置委員会を開き、翌日、議長報告を再提案することとなった。二日目、北本教会と阿部教師の按手についての部分は現在進行形で動いており、削除するとの報告があった。

「今回の件が教憲教規違反であることを確認し、撤回、謝罪するということなのか」、「議案報告書の送付が遅れ、審議権を侵害したことの責任をどう取るのか」等の問いがあり、東野議長は、「常置委員会の共通の理解のもとで出されていない」ということで削除した。課題と取り組み、解決するという形で責任を取って行く」と述べた。

170名中134名賛成で議長報告を承認した。委員会の整理・統廃合、常設・特設の種別変更、名称変更の議案を審議し、意見を踏まえて進めて行くことを確認し、常置委員会に付託した。

教団総会議員選挙において半数連記を求める議案が出された。無記名投票の結果、207名中賛成93名で否決された。教団総会議員選挙結果



関東

常置委員選挙結果
【教職】貝志堅(読谷)、吉澤信(真和志)
【信徒】玉城涼子(兼次)、

外間永二(平良川)、吉川幾子(うふぐと)、徳門米子(与勝)
(永井清陽報)

【教職】熊江秀一(大宮)、福島純雄(筑波学園、小池正造(東新潟)、栗原清(武蔵豊岡)、東野尚志(聖学院)、木村太郎(宇都宮、田中かおる(安行、村田元(群馬町)、佐野明子(塩谷一粒)、正田國磨(本庄)、石橋秀雄(越谷、島田進(日立)、飯塚拓也(竜ヶ崎)、小林

【信徒】半田香代子(原市、菊地愛(東中通、金刺英雄(上尾合同)、豊川昭夫(越谷、國吉常喜(宇都宮上町、佐久間文雄(志木)、大熊貢弓(東京聖書学校吉川)、高崎道子(鹿沼、勝野奉幸(大宮、山川秀人(聖学院、中松聖美(武蔵豊岡)、滝川英子(七里)、富永研司(日立)、玉井幸治(筑波学園)
(嶋田恵悟報)



時計の文字盤の針は、いつも同じ距離を正確に進み5分を刻む。この距離にも時間にも前後はない。しかし、この時間と距離を時として捉える人間は、あと5分しかないと思えば、同じ時間がとても短く思えるし他方、あと5分あると思えば、この同じ時間に相当に集中力を発揮する。同じ間隔が広くも狭くも見える。5分のせめぎ合いで集会準備をしている者の実感で、そうであればもっと早くから準備すればという声も聞けるが、なかなかできない。▼2020年問題という言葉が、教会でも教会会議でもテーブルに載っている。しかし、本堂に2020年なのか、根拠は何なのかといった確認無しに、この言葉だけが旗印のように振られて一人歩きしてはならない。▼言われる問題は、もう既に始まっているとも言えるし、20年を越えてさらに先に起るとも言える。同じ問題は常に起ってきたし、これからも起り続けるとも言える。伝道の危機はいつの時代にも、どこにおいてもあり続けたことであり、伝道に良かった時代など一時としてなかった。▼それでもなお5分あるのなら、宗教改革者に倣って、りんごの木をなお一本植えたい、そう思う。

PCT嘉義中会と宣教協約を締結

東北教区 第73回東北教区総会は、5月29～30日、仙台青葉荘教会で開催された。議員152名中118名が出席した。

本総会では、台湾基督長老教会（PCT）嘉義中会との宣教協約締結議案が中心となった。

この宣教協約決議の背景には、東日本大震災の際にPCTから、祈りと献金、268名のボランティア派遣を通して交流が深められてきたことがある。更に日本基督教団東日本大震災国際会議の際に、嘉義中会との出会いがあり、相互に訪問する中で協力関係を結ぶことを確認した。本来は2017年5月の東北教区総会で議決される予定であったが、実現に至らず本総会の提案に至った。一日目の夜には両者の理解を深めるための協議会が開催され、これまでの経緯と実際の様子が分かち合われた。

本議案に関して議場からは、文言の訂正意見が複数出されたが、小西望議長は、「文案に関しては、常置委員会でも、嘉義中会の幹部会でも時間をかけ準備してきた。色々な意見があると思うが、まずこの原案どおり締結したい」と述べ、「この議案は関係が始まろうとしているものであり、もしある段階で改訂が必要であれば、その時点で改訂を加えていく手順がふさわしいと考える」と述べ、採決に至り可決。直ちに調印式が行われ、記念品を交換し合い、会場は喜びに包まれた。

また、東日本大震災関連では、教会救援復興委員会の次期総会開催予定



蔡國珍中会議長（左）と小西教区議長（右）、固く握手

までの継続を語ったほか、「放射能問題支援対策室いずみ」については、2024年3月までの継続を目指すことを可決した。



議長挨拶では、東北教区東日本大震災救援を続けるための「募金A」教会の返済支援のために、2018年3月をも

って閉じたこと、同「募金B」エマオ・いずみの働きを続けるために」の募金により両センターを2019年3月まで継続させることが可能となったことが報告された。

今総会においては、既に行われた2名の按手受領の報告承認と共に、按

（矢吹、荒井偉作（名取）【信徒】齋藤仁一（山都）、高橋嘉男（名取）、佐藤京子（仙台北）、工藤正剛（仙台愛泉）、石原裕子（常磐）、丹治洋子（信太、森陸（天童）、大林健太郎（石巻栄光、鎌田仁美（涌谷）（佐藤 進報）

宣教強化・実質化の準備開始を可決



東中国教区 第67回東中国教区総会が5月28～29日、岡山教会で開催時議員85名中66名が出席して行われた。

推薦准議員承認において、来賓として受け入れられている佐々木美知夫教団副議長を問安使として受け入れる修正動議が出された。北村教師の教職剥

朗読した。「テロ等準備罪が成立し、改憲の発議に向けた動きがある中、見張りの使命に固く立つ。教区の10年間の推移が、

宣言強化について協議した。テロ等準備罪が成立し、改憲の発議に向けた動きがある中、見張りの使命に固く立つ。教区の10年間の推移が、

説明と意見交換、二日目に審議を行った。

大塚議長は、声明文に基つき、「48教会中、33教会が礼拝出席20名以下、内14教会では10名以下。兼務代務教会が15教会と教区の状況に触れ、多様性を豊かさとして捉え、既

教団機構改定案について議論



東京教区 5月29日、第77回東京教区総会が富士見町教会にて開催された。開会時の出席議員数は490名中327名だった。開会礼



秋山総幹事より挨拶を受ける

拝後、来賓挨拶と組織会を経て、三役報告・常置委員会報告から議事を開始した。議長報告の中で、岸俊彦議長は「教団の機構改定が急務」であり、この「教団の課題は教区の課題でもある」と述べた。

昼食休憩後、雲然俊美教団問安使が石橋秀雄教団議長の挨拶を読み上げ、配付資料を用いて教団機構改定案の説明を行

った。また、教団への質問は文書にして教団議長宛てに送付して欲しいと要望した。次いで秋山徹教団総幹事（東京教区総会議員）が挨拶に立った。質疑では機構改定案と教憲教規の関連や、東日本大震災救援の活動記録方法や借入金残額の返済方法等が問われ、問安使が教団の見解と今後の見通しを語った。

夕食休憩後に、17年度決算報告が1億2516万2382円で承認された。18年度予算案の審議では、教区負担金未納問題について、教区所属台湾教会の負担金減免措置と、各教会の諸事情による未納金特別措置の説明があった。質疑を経て予算案は未納負担金分を加味した1億2801万2950円で可決された。

常置委員選挙結果（半数改選）

【教職】藤盛勇紀（富士見町）、岸憲秀（千葉本町）、古旗誠（目白）、神保望（日本聖書神学校）、松井睦（聖徒）

【信徒】高花富夫（柏）、澤田竹二郎（白金）、守安久美子（船橋）、遠矢良男（富士見町）、鷺一彦（代田）

教団総会議員選挙結果

【教職】藤盛勇紀（富士見町）、高橋潤（銀座）、岸俊彦（経堂北）、中村公一（高輪）、伊藤英志（三軒茶屋）、古旗誠（目白）、村上恵理也（松戸）、長山信夫（安藤記念）、神保望（日本聖書神学校）、渡邊義彦（柿ノ木坂）、岸憲秀（白金）、西田寛子（鳥居坂）、高花富夫（柏）、石川日出男（滝野川）、鷺一彦（代田）、鈴木齊（銀座）、守安久美子（船橋）、神田道彦（洗足）、山神清和（聖ヶ丘）、川添裕一（自由が丘）、木下京子（聖徒）、坂元昭憲（三軒茶屋）、古宮正雄（中村町）、阿部勝雄（聖和）、藤本三四四（小松川）、平川寛子（梅ヶ丘）、小平正宣（代々木中部）、市橋佳子（田園調布）、榊田恒（柿ノ木坂）、鎌田あつ子（目白）、柏原通子（石神井）、伏見陽子（新津田沼）、池田信成（八代台）（原田裕子報）



上・2017 年クリスマス礼拝後に
左・修復後の会堂

委員会のもとと設置され、発展的に2013年東北教区総会で「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」の設置が可決されました。その年10月から運営が始まりました。今年の教区総会で2024年3月までいずみの活動を継続することが認められました。

2011年10月に北海道で開かれた北日本三教区（北海・奥羽・東北）宣教会議において、親子保養プログラム実施が承認され、以後、いずみの活動の一つとして企画実施してきました（今夏第12回目を北海道で予定）。

また、教区に設置された被災者支援センターエマオに教団派遣専従として佐藤真史教師が赴任されました。佐藤教師はいずみ愛泉教会副牧師として加わって、そのこともあって、教会は小さいですが、さまざまな形でこれらの教区の二つの働きに積極的に加わり、課題に向き合いながら関わり続けることが許されました。そしてたくさんの方々との出会いが与えられ、感謝です。

ところで昨秋、福島・飯館在住の伊藤延田さんの話を教会で聞きました。伊藤さんは2010年3月に飯

館に設置された民間企業「農業研修所・いいたてふぁーむ」の管理人に就任し、順調な成果の中2年目の準備をしているところで震災・原発事故を受けました。全村避難となり、以来、土壌・空間線量、食べ物の計測を継続しており、原発事故が飯館村にもたらしたもの・事故から6年半の記録」と題して詳細なデータを示し、話してくれました。その一つ、飯館村で昨年10月26日に測定した土壌セシウム137は4万4893ベクレル/kgでした。半減期30年として、30年後でも39ベクレル/kg残ります、と。

しかし、国は昨年3月末に避難指示を解除しました。今年4月7日、34億円かけて新しく建築された小中一貫校が再開され75人の生徒が通うことになりました（村内からは8名）。避難解除は年間被ばく量が20ミリシーベルト以下になったからとされています。これは周知のように放射線管理区域の約4倍に当たります。確かに、閾値はありません。ですが、行政の「安全・安心」宣言を信じてそこに住む人の、特に子どもたちの健康被害が心配です。不安を抱えながら住まわざるを得ない人たちの自己責任とされて良いのでしょうか。

震災後、沢山の方から献金支援をしてもらいました。教団会堂共済組合から助けられ励まされました。会堂修築工事費用合計479万3750円でした。

目に見える復興は進んでいますが、しかし、心に深く傷ついた方がたくさんおり、時間がかかります。原発被害は終わることがありません。これからも変わることなく祈りに覚えていただければ幸いです。

伝道報告

伝道の
TOMORROW ともに

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

震災を受けてー特に原発事故に向き合って

東北教区・いずみ愛泉教会牧師 布田 秀治

委員会のもと設置され、発展的に2013年東北教区総会で「東北教区放射能問題支援対策室いずみ」の設置が可決されました。その年10月から運営が始まりました。今年の教区総会で2024年3月までいずみの活動を継続することが認められました。

2011年10月に北海道で開かれた北日本三教区（北海・奥羽・東北）宣教会議において、親子保養プログラム実施が承認され、以後、いずみの活動の一つとして企画実施してきました（今夏第12回目を北海道で予定）。

また、教区に設置された被災者支援センターエマオに教団派遣専従として佐藤真史教師が赴任されました。佐藤教師はいずみ愛泉教会副牧師として加わって、そのこともあって、教会は小さいですが、さまざまな形でこれらの教区の二つの働きに積極的に加わり、課題に向き合いながら関わり続けることが許されました。そしてたくさんの方々との出会いが与えられ、感謝です。

ところで昨秋、福島・飯館在住の伊藤延田さんの話を教会で聞きました。伊藤さんは2010年3月に飯

台湾基督長老教会総会報告

台湾基督長老教会（PCT）総会が4月17～20日、台南の長榮女子高級中學で開かれ、世界宣教担当の加藤誠幹事とともに参加した。ちなみに会場となった高校は台湾で最初の女子教育機関であり、戦前日本の統治下では植村環牧師や香匠鉄雄牧師が校長を務めた学校で、日本とも関係が深く、総会では開会礼拝に続き多くの海外ゲストよりアメリカ改革教会と日本基督教団からの表敬の挨拶が求められた。

のうちに協約締結礼拝が行われた。

また、今総会の重要課題は、高齢者へのミニストリーで、身体的・精神的・霊的なレベルで高齢時代を生きるキリスト者、教会、社会がどのようにに働くかについて、「高齢者を共に思いやり、惜しまぬ愛を」の標語を高く掲げ、委員会で周到に準備されたプログラムに沿って、会場での健康体操に始まり、各地方教会のこの問題との取り組みの紹介や、高齢に伴う心身の変化や、それに寄り添って生きる者の姿勢や対応の仕方など充実した協議が行われた。

また、若い世代への宣教として、「少年新眼光」と称する新しい聖書の言葉や日常の生活に生かすプログラムを取り入れることにも熱心に取り組んでいる。今教会に何が求められ、教会は具体的に何ができるかを明らかにして取り組んでいる姿を見ることができた。

PCTの教会は歴史的に先住民の人権を守る運動にも積極的に取り組んでおり、会議もそれぞれの先住民の言語での祈りが大切にされている姿にも接し、学ぶところが多くあった。



挨拶する秋山総幹事

（秋山 徹報）



Sowers (ソワーズ)
倉橋宇多子
宗田 光悦

歌による種まきを



Sowersとして、1999年より
ゴスペル活動を開始。共に、
武蔵豊岡教会員。

ソワーズのヴォーカルとして活躍する倉橋宇多子さんは、武蔵野音大音楽科を卒業。日本テレビ「今夜は最高！」にコーラス「ザ・最高ガールズ」としてレギュラー出演。都内ライブハウスに出演しCM等のレコーディングに参加した実績を持つ。ピアノを担当する宗田光悦さんは、国立音大作曲科を卒業。六本木にてジャズピアノトリオで活動を開始。テレビ、ラジオの音楽製作も手がける。現在、高校の音楽科で音楽理論や作曲の講師を務める。

宇多子さんは、幼少より歌うことが大好きだった。母・佐江子さんの歌好きは、娘の名前に反映した。クリスチャンの母と教会に通い、中3の時、広島教会で洗礼を受けた。卒業後は歌手として音楽事務所所属し、子ども向けコンサートで全国を巡った。その時のスタッフの一人だった光悦さんと出逢う。光悦さんは会津若松出身。姉の影響でオルガンを始め、小学生の時から電子オルガン奏者として活動し、作曲家を志した。音楽の相性が、ぴったりと合った二人は、ゴスペル活動を始め、学びの必要性を感じて、黒人教会の牧師が指導する都内のゴスペル教室に通った。活動が続けるうち、信仰が不可欠だと知らされ、共に主に従う人生を歩むことを決意し、光悦さんも洗礼を受けて二人は結婚した。以来、二人の活動は、神の愛となるイエス・キリストの福音に救われる喜びに立ち、多くの人たちと分かち合う働きをする。御言葉を伝えるためには、更なる聖書の学びを必要とすることを実感している。

ソワーズは、来年で活動20年を迎える。神様に今を生かされることを、ゴスペルクワイアやワークショップの指導を通して、多くの人々と共有されることが二人には大きな喜びになっている。今は、全国教会で、主の働きのために豊かに用いられることを心に祈っている。

広島の姪から電話で「母が死んだ」とのこと。私の姉が召された。すぐ広島に飛んだ。呉の天応は私の故郷だ。特に天応での小学校4年生から6年生は楽しくて仕方がなかった。父の会社で倒産し両親は職を求めて東京に行ったが、私は、11歳年上の姉と二人、天応で暮らした。

姉は勉強が大好きで、広島女学院から勉強がしたくて公立の大学に進学した。医学部に行きたかったけれど、家が貧しく、大嫌いな国文科に入った。大嫌

姉の証し

いだから却って勉強ができると思ったとのこと。大学を卒業すると給与が一番よいとバスガイドになり私を育ててくれた。姉は私を厳しく育ててくれた葬儀についてキリスト教式であることを認めていた。呉山手教会・三矢亮牧師の司式で姉の葬儀をしていただいた。

葬儀の翌日、姉の夫が召された。続きで仏教の葬儀。二つの葬儀を経験した、姉の成人している孫二人が、教会に行っていないのに洗礼を受けたいと言出した。嬉しかった。

（教団総会議長 石橋秀雄）

が、仕事柄、早朝出かけて深夜帰宅、泊りのときもあった。お陰で「海の子、山の子、自然の子」と遊びまわる最高に楽しい小学生時代だった。

私は姉を尊敬し、姉を誇りに